

山間地における繁殖経営の規模拡大法について

中 島 良 文

目 的

自由化と景気低迷によって、高級肉の価格まで低下し、子牛価格も低下傾向にある。このため繁殖経営農家は先行き不安であり、高齢化と後継者の不足は更に進行しつつある。本調査はこういった状況下で、北薩山間地における繁殖経営者がどのような方法で規模を拡大し、あるいは維持しようとしているかを明らかにし、農家の現状に密着した繁殖経営技術の方向を模索しようとした。

材料と方法

祁答院町の346戸の繁殖経営農家についてアンケート調査を行った。本調査では、繁殖経営農家の年齢、飼養規模、増頭方法、粗飼料面積の拡大法、日雇い出勤日数および牧場の必要性について調査した。

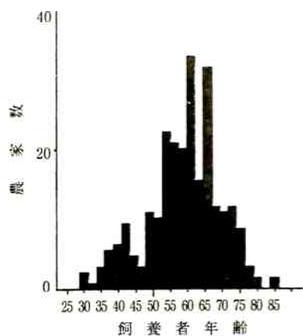
結果と考察

第1図に飼養者年齢別の農家数の分布を示した。繁殖農家の年齢は60歳から65歳がピークで、それ以上の年齢の農家数は急速な減少を示した。また、50歳以下の農家数が少ないことが特徴的であった。

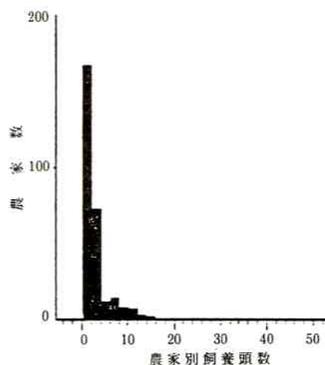
第2図に飼養頭数別の農家数の分布を示した。2頭から4頭の飼養規模の農家数が圧倒的に多く、10頭以上の農家数は極めて少なかった。第3図に年齢と飼養頭数との関係を示した。50歳で46頭の飼養者がみられたが、年齢と飼養頭数との間には一定の傾向は認められなかった。

第4図に増頭する際の方法別に現在の飼養頭数の違いを示した。これによると、増頭する際には牛舎の増築か屋外飼養の形態で行いたいとする農家が多いが、これらの農家の飼養頭数は少なかった。しかし、里山飼養で増頭しようとする農家数は少ないものの、飼養頭数は多く、有意な差が認められた。第5図に粗飼料面積の拡大法による飼養頭数の違いを示した。粗飼料面積の拡大法による飼養頭数の違いには有意な差は認められず、年間にわたって畑を借地し、粗飼料を確保したい農家数が最も多かった。

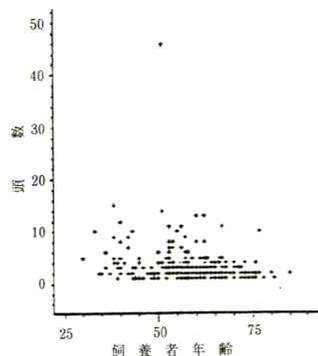
第6図、第7図および第8図で公共牧場を必要とする要因について考察した。これによると、公共牧場を必要としている農家は、高齢で、日雇い出勤日数も少ない、小規模経営農家であることが推測された。



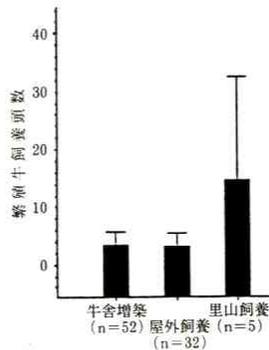
第1図 飼養者年齢別の農家数の分布



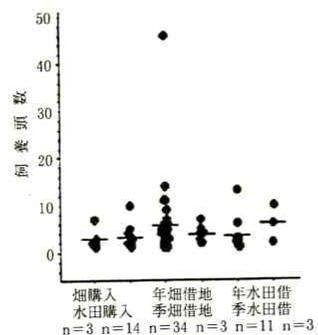
第2図 飼養頭数別農家数の分布



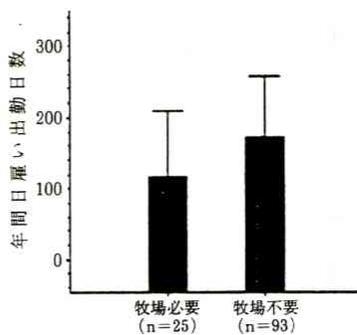
第3図 飼養者の年齢と飼養頭数の関係



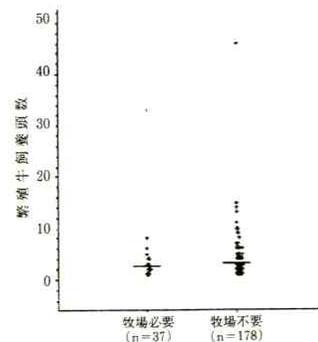
第4図 繁殖牛飼養頭数と増頭方法



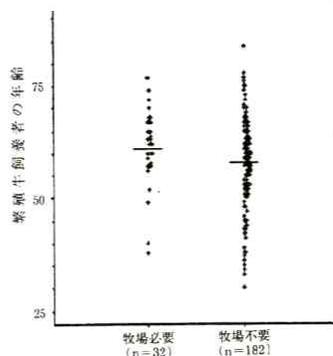
第5図 飼養頭数を増やす時の粗飼料面積の拡大方法



第6図 繁殖農家の日雇い出勤日数と牧場の必要性



第7図 繁殖牛飼養頭数と牧場の必要性との関係



第8図 繁殖牛飼養者の年齢と牧場の必要性